



様式第8号(第5条関係)

(その1)

平成30年4月25日

十和田市議会議長  
工藤正廣様

会派名 終の会  
経理責任者 戸来 伝

平成29年度政務活動費収支報告について

十和田市議会政務活動費の交付に関する条例第7条第1項の規定に基づき、  
別紙のとおり平成29年度政務活動費収支報告書を提出します。

(その2)

平成 29 年度 政務活動費収支報告書

会派名 柊の会

1 収 入

政務活動費 540,000 円

2 支 出

(単位：円)

科 目	金 額	備 考
調査研究費		
研修費	30,000	8/8~9 林活議員連盟 (盛岡市、登米市)
広報費		
広聴費		
要請・陳情活動費		
会議費		
資料作成費		
資料購入費		
人件費		
事務所費		
合 計	30,000	

3 残 額 510,000 円

(注) 備考欄には、主たる支出の内訳を記載する。

研 修 費

(その3)

政務活動報告書

会派名	柗の会			
活動議員名 (取扱議員名)				
戸 来 伝				
区 分			合計金額	
1 調査研究費	② 研修費	3 広報費		4 広聴費
5 要請・陳情活動費	6 会議費	7 資料作成費	8 資料購入費	30,000 円
9 人件費	10 事務所費	※該当する区分に○印		
期間 (年月日)	平成 29 年 8 月 8 日 ～ 8 月 9 日 ( 1 泊 2 日 )			
支出目的 (支出理由)	8月8日 森林総合研究所東北支所 ・東北地方の多雪環境に適した低コスト再造林システムの実用化に向けた研究成果「ここまでやれる再造林の低コスト化」の取り組みについて  8月9日 登米町森林組合 ・太陽熱乾燥システムの取り組みと震災復興支援の取り組みについて			
用務先 (支払先)	森林総合研究所東北支所、登米町森林組合			
内容及び成果	別紙 視察報告書のとおり			

※領収書及び料金内訳書等の写しは裏面へ貼り付けしてください。

## 森林・林業・林産業活性化促進十和田市議会議員連盟 研修報告書

### 1. 平成 29 年 8 月 8 日 森林総合研究所東北支所

- ・東北地方の多雪環境に適した低コスト再造林システムの実用化に向けた研究成果「ここまでやれる再造林の低コスト化」の取り組みについて

#### 報告内容

近年、再造林放棄地が増えており、その最大の要因になっているのが費用負担であった。特に植栽と下刈りに経費がかかっており、これを削減する方法を考えることが重要であるということでした。

多雪地帯での再造林コスト低減のポイントは、①速く植えられ確実に活着し、植付時期の制約が少ないコンテナ苗の利用、②機械による地拵え作業と低密度植栽、③下刈り作業の大幅な見直し、④東北型一貫作業システムの採用でトータルコストの削減でした。

コンテナ苗は、高齢者でも作業が簡単にでき、また植栽が裸苗の2倍の速さでできる。しかし苗木代が裸苗の約1.4倍～2.5倍ということで、これを裸苗並みの価格にすることが今後の課題ということでした。また、最も重労働で経費のかかる下刈り作業も従来の半分程度でも成長へ影響がないというデータが出ていた。これらの取り組みは、近年の市場ニーズが高品質材（A材）よりも合板用に使用される並材（B材）へ変化しているということが影響しているとのことでした。

また、林道の整備が重要であると感じたが、整備には時間がかかることもあり、森林維持の課題は多いと実感しました。

### 2. 平成 29 年 8 月 9 日 登米町森林組合

- ・太陽熱乾燥システムの取り組みと震災復興支援の取り組みについて

#### 報告内容

住宅の高規格化（高断熱・高气密）、復興住宅需要への対応、林業の衰退等の状況のもと、如何なるときも高品質の地域材を安定して供給できる体制づくりが課題となっていた。そこで太陽熱木材乾燥庫ToSMSが考えられた。このToSMSは、太陽熱で温風をつくり庫内に押し込む方法で、化石燃料に頼らず大量の木材を乾燥しながらストックでき、二酸化炭素排出削減で持続可能なエネルギー社会にも貢献するものでした。

自然エネルギーを上手に利用し、特別な資材を使用していない設備はとても参考になりました。

震災復興支援の取り組みでは、協議会の設立と組手什（くでじゅう）の寄贈の取り組みが特徴的でした。

協議会設立は市内関連団体が全て加入し、登米市と協議会で基本協定を締結することで地域の資源をフル活用し、災害公営住宅を施工できるものでした。また組手什は、長さ2 m×40 mm×15 mmの杉材に40の凹凸を加工し、それを様々な家具に組み立てることができる、組立家具キットでした。震災直後の避難所で避難している方自身が指導を受けながら組み立て、棚、机、間仕切り壁など必要なものをその場で組み立て、利用が終われば分解して再利用できる便利なものでした。

災害はいつどこに起こるかわからないので、こういった知識や対策は当市にも取り入れることも考えなければならぬと思いました。